

平成27年度「研究大学強化促進事業」フォローアップ 進捗状況概要 熊本大学

目 的

- 学長が主導する大学院先導機構の下での全学的研究推進体制の拡充・整備
- 人事制度改革（URAを対象とする人事システムの整備、年俸制の下での外国人を含む教員雇用制度の整備）
- URAを主体とする研究力強化支援体制の人的・物的整備
- 研究環境の国際標準化に向けての研究環境の整備（研究施設の整備、研究機器の国際標準化、学内研究設備の共同利用促進）
- 国際共同研究の推進及び国際共同研究ネットワークの拡充（海外トップレベル大学との双方向研究交流の推進）
- 若手研究人材の育成と確保（国際的に優れた教員の確保、テニュアトラック制度の拡充・整備）

これまでの実績・進捗状況

- 大学院先導機構に、テニュアトラック推進室・URA推進室・研究サポート推進室を設置することで、研究推進体制を一元化した。
- 年俸制の導入と特命教員の雇用の開始、URA及びURA研究員の人事制度整備とその雇用を実施した。
- URA推進室を設置し、URAの業務及び個人・グループとしての活動体制を明確化した。
- 平成26年度に国際先端医学研究拠点施設及び国際先端科学技術研究拠点施設を設置し、研究環境整備の促進や海外大学からの研究者招へい等により国際共同研究を加速化させた。
- テニュアトラック制を活用し、国際的な視野に立った優秀な若手研究人材の確保を図った。

今後の課題と展望

- 本学の「大学戦略会議」の下で、学長主導による戦略的資源再配分(人的・物的資源の重点配分)や学長裁量経費等による重点研究支援により、研究推進体制をさらに強化する。
- テニュアトラック制及び年俸制を基本とする雇用制度の拡充整備を進め、優秀な外国人教員、若手研究者の獲得と定着化を推進する。
- 研究環境の国際標準化をさらに進展させ、国際共同研究ネットワークの拡充・整備を推進する。
- 熊本大学スキル標準によるURAの人事評価制度とキャリアパスを整備する。
- 「国際先端医学研究機構」（平成27年4月）の設置に続き、「国際先端科学技術研究機構」（平成28年4月予定）を設置し、国際共同研究の環境整備を進展させる。
- 本学の特色である発生医学研究、エイズ学研究、生命資源研究、マグネシウム材料工学研究、パルスパワー・衝撃エネルギー研究を継続的に展開すると共に、本学が世界をリードしていく新たな研究分野を創出し、その成果を世界に発信する。

フォローアップ結果

評点区分：おおむね順調に進んでいる

全体を通じた所見

- 地域密着型研究拠点大学の形成を目指し、大学改革の一環として、本事業を明確に位置付け、URA強化を含め、学長のリーダーシップの下、着実に事業が展開されつつあり、おおむね順調に進んでいることが確認された。今後、持続的発展に向けた方策の検討を期待したい。

特に優れた点

- 国際先端医学研究拠点施設及び国際先端科学技術研究拠点施設の設置による国際共同研究の加速化の推進、テニュアトラック制の活用による国際的な視野に立った若手研究人材の確保など、国際的に優れた研究者を確保するための意欲的な取組が見られる。

期待する点

- 従来からのURA類似職と本事業によるURA職をどのようにして統合し、大学全体の教員・職員の組織・機能の強化に結実させるかの全学的ロードマップを検討することが期待される。
また、URAの教育の視点からの取組の充実も期待したい。